議　事　録

会 議 名	令和６年度　第２回　教育課程編成委員会
日　　時	令和７年２月１９日（水）　１５：００～１７：００
場　　所	中央工学校ＯＳＡＫＡ　１号館　３１・３２教室
参 加 者	[委　員]　（敬称略） 田鍋　稔（欠席）、金沢　ちかこ、小坂田　昌広、田中　由之、 岩尾　美穂 [関係職員] 中村　聖吾、原　充介、戸澤　まり子、中島　征治、 諸岡　邦行、篠崎　潤一、太田　育子、平上　秀明、 楢崎　悟志（司会）、豊田　昌代（写真）、谷村　友紀奈（記録） [オブサーバー] 松田　正之
内　　容	**１．令和６年度　第２回　教育課程編成委員会** 司会の楢崎　悟志職員が開会の宣言を行い、教育課程編成委員会が開会した。 （ア）学校長挨拶 中村校長より松田専務理事の紹介、第１回教育課程編成委員会以降の本校の学校運営について報告があった。 ・11 月 11 日（月）から 15 日（金）に教育懇談会を実施した。懇談を希望する保護者に対して、各クラス担任が成績・進路状況などを説明や相談を行った。 ・11 月 5 日（火）から８日（金）に研究科が国内建築研修を実施した。清水建設技術研究所、中央工学校（東京校）等を見学した。 ・11 月 22 日（金）にフィットネス 21 東淀川体育館にてスポーツ大会を実施した。各クラス男女別対抗でのバレーボールを行った。 ・1 月 23 日（木）から 1 月 26 日（火）に後期定期試験を実施。 ・2 月 6 日（木）から 2 月 12 日（水）に後期追試験を実施。 ・2 月 17 日（月）から 2 月 18 日（火）に卒業成果・制作発表会を

	実施した。17 日（月）については、建築系 3 学科の 1 年生と研究科が学習成果の発表を行った。また 18 日（火）については、建築系 3 学科の 2 年生が卒業制作の発表を行った。会場とオンライン視聴の併用により、在校生や保護者、企業関係者などに発表を視聴いただいた。 ・今後は卒業成績審議会と卒業証書授与式を予定。 （イ）配布資料の確認 楢崎　悟志職員から、本日の配布物の確認を行った。 （ウ）令和６年度教育内容について 戸澤学科長より令和６年度の建築系の教育について、配布資料に沿って説明があった。 ・軽井沢合宿研修：4 月 23 日（火）から 25 日（木）、4 月 25 日（木）から 27 日（土）の日程で２回分けて 1 年生を対象に実施した。富岡製糸場、群馬音楽センター、群馬県立近代美術館等を見学した。フォローアップ研修ではコロナ禍に行った、マナー研修を万博記念公園迎賓館で引き続き実施した。 ・建築施工実習：9 月 30 日（月）から 10 月 4 日（金）に今年度は校内で実施。事前教育として 9 月 13 日（金）にガイダンス、9 月 30 日（月）に足場特別教育を実施した。研修には富士研修所から先生にお越しいただき指導していただいた。校内で実施したため体調不良の学生も参加しやすい体制になっていた。 ・秋の文化イベント：昨年度に引き続き、「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」へ参加で実施した。今年度は、イベントへの参加と並行して学校内で学生作品展覧会を実施。 ・スポーツ大会：昨年度まではクラス対抗で競技を行っていたが、今年度は男女別のトーナメントを実施したところ、参加意欲が高まり真剣に取り組んでいた様子が見られた。 【研究科について】 ・国内研修：学校法人所有学生寮「クワドラングル志茂」に宿泊し東京にて 4 日間充実した建築物等の見学を行った。12 月 11 日（水）に実施した校内発表会には校長にもお越しいただき報告を行った。今回は報告の内容が充実しており、分析力が高く内容も濃いレポートを確認できた。

	【卒業成果・制作発表会について】 ・2 月 18 日（火）に建築系の各学科 2 年生の内、上位 19 名が発表を行った。発表に対して学内外の審査員 8 名が審査を行い入賞者 6 名を決定した。 ・入賞者 6 名の学生作品は、後日パンフレットにまとめ配布予定。 【資格試験対策について】 ・今年度は次年度からの新しい資格対策制度の検討を進めてきた。学生のモチベーションが高い時期に受験勉強を開始すること、本番に向けて最短で集中してサポートすること、ニーズの高い資格やレベルのあった資格にチャレンジさせて資格を取得させること。この 3 つの課題を踏まえて新たな資格支援の仕組みを実施する。新しい学生のニーズとして BIM 検定(BIM 利用技術者試験)を追加する。 【建築系の教育についてのまとめ】 ・今年度、研究科の授業において BIM を駆使した造形デザインの演習を CG・DTP の科目で実施したところ、学生の興味関心が高まり、卒業成果発表においても、他学生が非常に興味を示す反応が見られた。今後、建築学科や他の学科での展開が期待できる。 ・今後は学習成果の質的向上を目指した具体的方策を実施し、資格取得率や、コンペ受賞率を向上させたい。 （エ）令和６年度卒業成果・制作発表会発表作品の見学 平上　秀明職員より建築学科の作品説明、引き続き、豊田　昌代職員より住宅デザイン科の作品説明、戸澤　まり子学科長よりインテリアデザイン科の作品説明を行った。 （オ）意見交換 【金沢　ちかこ委員】 ・卒業制作について、今年度の優秀作品をみて一番感じたことは専門学生らしさが出ていると感じた。専門学生らしさとは、卒業後すぐに即戦力なれるように学んでいるという特性を、住宅デザイン科の作品を見学して感じた。 ・インテリアの作品の評価の仕方が難しいと感じた。建築学科や住宅デザイン科は図面をみると力量がわかり就職においても即戦力になるというのがわかるが、インテリアは頭の中のソフトの世界をデザインとして見せようとすると難しい。その点、イ

	ンテリアデザイン科の家具・照明コースはハードの部分を見てもらえるコースであるので、今回家具などの制作物を見ることができず残念であった。 ・インテリアスタイリングというものにズレを感じた。インテリアスタイリングとは部屋の装飾など、一部の範囲の規模が小さいものだという認識であったが、今回受賞した学生のインテリアスタイリングというものはコンセプトの空気感やマーケティング、事業計画などの大きな範囲を踏まえて考えられているものだと感じた。そこまで考えられているのは素晴らしいが、インテリアスタイリングの装飾的な表現ができれば他の学科と同じように就職などの次へのつながりなども見えてくるのではないか。 【小坂田　昌広委員】 ・卒業制作を見学して、インテリアデザイン科の成果物がなかった点、また建築学科の受賞作品がなかった点も残念である。建築学科の受賞作品がない理由としては作品に華がなかったのではと感じた。 ・発想を育てるのは教える者のモチベーションが大事。 ・仕事と考えると、どのくらいの時間を使ったのか、それに伴いどれだけの費用が掛かるのか、作るだけではなく実社会のことを気にしながら作成していくことも必要である。 ・設計とは違う分野でコーディネーターの価値が高まっている。 ・卒業成果制作発表会について、もっと緊張した様子が見られると思っていたが、思った以上に学生が自信をもって自分の作品を発表している姿を確認でき、素晴らしいと感じた。また、審査員からの講評時の学生の様子が印象的。学生には審査員からの意見を批判ではなく、次に活かすことのできる意見として受け取ってほしい。 ・建築物、住宅、デザインなど作ったもの、考えたものは大体のものが消えていくが、それも次に別の形のものとして生きると考えている。 【田中　由之委員】 ・卒業制作について、模型の精度が良かった。あれだけのものを作りきるというというのは、それなりの努力とイメージが必要

	でさらにフルカラーで作成されているという点を考えるとよく考えられている作品だなと感じた。 ・インテリアデザイン科の作品について、体験型美術館などの世界観に浸かる体験という提案は今後増えていくと考えている。 ・住宅デザイン科の作品について、計画として必要な図面を一式揃えさせたという点では知識や経験値として良いものになっていると感じた。住宅というものも身近にあり、イメージしやすくまとめやすいものであると考えている。 ・建築学科について、住宅に比べて身近にあるものではなく、自身の体験のレベルにかかっている部分が多く、図面に落とし込むことが住宅に比べると難しいものだと感じた。また、作品に対する熱意が住宅よりも低かったと感じた。 ・施工図作品について、見栄えのするものではないが、建物を作る上で大事な技術であり、技術を引き継いでいかないといけないものであるため、施工図を完成させたことは評価したい。 見せ方の面としてはもう少し BIM を使用して骨組みの美しさなどを見せるなど工夫する必要があるのではないか。 【岩尾　美穂委員】 ・卒業成果・制作発表会について、自分の作品を、自分なりの言葉、表現方法でプレゼンテーションをしている姿が印象的で作品への想いが伝わった。 ・プレゼンテーションの内容について、コンセプトや考え方を伝えることが主で、技術や工夫などの説明が含まれていなかった。その点のアピールがあっても良いのではないか。 プレゼンテーションの服装に関してもフォーマルな佇まいで取り組んでいる点が良かった。 ・作品ついて、プレゼンテーションでは伝わらなかった作りこみが見えて良かった。ボリュームが大きいものになり、精度も上がったと感じた。揃った図面も仕事で見るような種類の図面が揃っており、精度に関してはプロには至らないが、知識・経験として良いものになったのではと感じた。 ・インテリアデザイン科の作品について、これまでとは違う作風であったと感じた。今まではもっとスタイリングに集中している作品が多かった印象だが、図面に寄っているような作品が多いと感じた。

	【平上　秀明職員】 ・建築学科の作品において、自分が体験したことのある建物に影響されることが非常に大きいと考える。卒業制作では今までの授業でやっていなかった、公共性・社会性のある建築物に取り組もうとしている学生が多い。今年の学生については、今までの学生と知識、体験の違いなどはないが、想像する力が弱く、今の自分に必要なものを想像する力が低い学生が多かった。 【田中　由之委員】 ・作品に施設の最低限の基本的な仕組みがないとリアリティが生まれない。 【平上　秀明職員】 ・実際に施設を見学するように指導をするがインターネットでしか見ないため、表面的な情報しか得ることができず、感覚的な重さのイメージができない。 【田中　由之委員】 ・建築業界の分業が進み IT の分野もいつかは AI が担うようになると考えているが、技術が進歩しても使用する人がしっかりとした意思がないと技術を教えても吸収ができないと考えている。 ・分業化が進みすり合わせ不足で食い違いが起こること、施工図面を作成する人には初心者も多く失敗しながら経験するなど実社会に出て学ぶことは多い。 ・設計図とは違って施工図は実際に作業する人が見て作り上げていく図面なので、どのような人でも理解できる、見やすい図面を作る必要がある。 ・一方的にものを言えない時代になっており、低姿勢で接する必要がある世の中になっているのではないかと考える。 **２．閉会の辞** 楢崎　悟志職員が閉会の宣言を行い、教育課程編成委員会が閉会した。

	【配付資料一覧】 ・令和６年度　第２回教育課程編成委員会　次第 ・令和６年度　建築系の教育について ・令和８年度　入学者用学校案内書 以上